

DRUG

INFORMATION



2007 No. 26

平成19年9月7日発行

1. 医薬品の採用・中止・変更について1
ー平成19年9月6日 薬事委員会結果報告ー
2. 新規医薬品添付文書情報3
3. ニトロール注のシリンジ製剤への切替について11
4. ビカーボン注のバッグ製剤への切替について13

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp

医薬品の採用・中止・変更について

ー平成 19 年 9 月 6 日 薬事委員会結果報告ー

新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ゼチーア錠(エゼチミブ)	10mg/錠	高脂血症治療剤	バイエル
セレコックス錠(セレコキシブ)	100mg/錠	非ステロイド性消炎・鎮痛剤	アステラス
テモダールカプセル(テモゾロミド)	20mg/Cp	抗悪性腫瘍剤	シュering・プラウ
テモダールカプセル(テモゾロミド)	100mg/Cp	抗悪性腫瘍剤	シュering・プラウ
オルベスコ 200μg インヘラー(シクレソニド)	[56 吸入] 11.2mg/3.3g/缶	吸入ステロイド喘息治療剤	帝人ファーマ
ネオステリングリーン(塩化ベンゼトニウム)	[0.2%] 56mL/本	口腔洗浄・含嗽剤	日本歯科
ミケラン LA 点眼液(カルテオロール塩酸塩)	[2%] 2.5mL/本	緑内障・高眼圧症治療剤	大塚
アバステン点滴静注用(ベバシズマブ)	100mg/4mL/V	抗悪性腫瘍剤	中外
アバステン点滴静注用(ベバシズマブ)	400mg/16mL/V	抗悪性腫瘍剤	中外
アボネックス筋注用シリンジ(インターフェロン β-1a)	30μg/0.5mL/筒	多発性硬化症用剤	バイオジェン・アイデック
アリクストラ皮下注(フォンダパリヌクスナトリウム)	2.5mg/0.5mL/筒	合成 Xa 阻害剤	GSK
アルケラン静注用(メルファラン)	50mg/V	造血幹細胞移植前処置剤	GSK
アンカロン注(塩酸アミオダロン)	150mg/3mL/A	不整脈治療剤	サノフィ・アベンティス
オーアイエフ(インターフェロン α)	500 万国単位/V	天然型インターフェロン-α 製剤	大塚
プロジフ静注液(ホスフルコナゾール)	100mg/1.25mL/V	深在性真菌症治療剤	ファイザー
ポリドカスクレロール注(ポリドカノール)	[3%] 60mg/2mL/A	下肢静脈瘤硬化剤	ゼリア

採用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
バイアスピリン錠(アスピリン)	100mg/錠	抗血小板剤	バイエル
ブイフェンド錠(ボリコナゾール)	50mg/錠	深在性真菌症治療剤	ファイザー
ブイフェンド錠(ボリコナゾール)	200mg/錠	深在性真菌症治療剤	ファイザー
ブラビックス錠(クロピドグレル)	75mg/錠	抗血小板剤	サノフィ・アベンティス
ボナロン錠(アレンドロン酸ナトリウム水和物)	35mg/錠	骨粗鬆症治療剤	帝人ファーマ
レキップ錠(ロピニロール塩酸塩)	0.25mg/錠	ドパミン D ₂ 受容体系作動薬	GSK
レキップ錠(ロピニロール塩酸塩)	1mg/錠	ドパミン D ₂ 受容体系作動薬	GSK
アルチバ静注用(レミフェンタニル塩酸塩)	2mg/V	全身麻酔用鎮痛剤	ヤンセンファーマ
タケブロン静注用(ランソプラゾール)	30mg/V	プロトンポンプインヒビター	武田
フィシザルツ-PL	2,000mL/袋	生理食塩液	扶桑
フォリスチム注(フォリトロピンベータ)	75 国際単位/0.5mL/V	遺伝子組換え卵巣刺激ホルモン製剤	オルガノン
プロポフォール注「マルイシ」(プロポフォール)	[1%] 200mg/20mL/A	全身麻酔・鎮静用剤	丸石
リン酸 2 カリウム注シリンジ(リン酸二カリウム)	20mEq/20mL/筒	電解質補正用剤	テルモ
ローヘパ注シリンジ(パルナパリンナトリウム)	[200 単位/mL] 20mL/筒	血液凝固阻止剤	味の素ファルマ

採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
アカルディカプセル(ピモベンダン)	1.25mg/Cp	心不全治療薬	ペーリンガー・インゲルハ임
オイグルコン錠(グリベンクラミド)	2.5mg/錠	経口血糖降下剤	中外
セファランチン末(タマサキツツラフジ抽出アルカロイド)	10mg/g	白血球減少症治療剤	化研生薬
ヒポカカプセル(塩酸バルニジピン)	15mg/Cp	持効性 Ca 拮抗剤	アステラス
ベスタチンカプセル(ウベニメクス)	30mg/Cp	抗悪性腫瘍剤	日本化薬
ペルマックス錠(メシル酸ペルゴリド)	250μg/錠	パーキンソン病治療剤	イーライリリー
ロコルナール錠(トラピジル)	100mg/錠	循環機能改善剤	持田
ロレルコ錠(プロブコール)	250mg/錠	高脂血症治療剤	大塚
ピマリシン点眼液(ピマリシン)	[5%] 5mL/本	抗真菌剤	千寿
アデル注(塩酸コルホルシンダロパート)	5mg/V	急性心不全治療剤	日本化薬
エトキシスクレロール注射液(ポリドカノール)	0.3g/30mL/V	食道静脈瘤硬化剤	カイゲン
ミリスロール注(ニトログリセリン)	50mg/100mL/本	抗狭心症剤	日本化薬

※院内在庫がなくなり次第、処方中止とします。

製剤変更医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ニトロール注 ⇒ ニトロール注シリンジ	5mg/10mL/A ⇒ 5mg/10mL/筒	抗狭心症剤	エーザイ
ピカーボン注(ボトル ⇒ バッグ)	500mL/瓶 ⇒ 500mL/袋	細胞外液補充液	味の素ファルマ

※旧製剤の在庫がなくなり次第、処方変更とします。

＊エゼチミブ Ezetimibe

【商】ゼチーア Zetia バイエル

内用：錠剤 1錠中 10mg [250.9 円/錠]

【効】高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症、ホモ接合体性シトステロール血症

【用】1回 10mg を1日1回食後投与する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、(本剤と HMG-CoA 還元酵素阻害剤を併用する場合)重篤な肝機能障害のある患者

【副】アナフィラキシー、血管神経性浮腫、発疹、横紋筋融解症、ミオパシー (精)頭痛、しびれ、めまい、坐骨神経痛 (消)便秘、下痢、腹痛、腹部膨満、悪心・嘔吐、アミラーゼ上昇、食欲不振、消化不良、逆流性食道炎、鼓腸放屁、口内炎、腭炎、胆石症、胆嚢炎 (肝) ALT・γ-GTP 上昇、AST・ビリルビン上昇、肝炎 (腎)蛋白尿、BUN 上昇 (循)期外収縮、動悸、血圧上昇 (筋)CK 上昇、関節痛、筋肉痛 (血)白血球減少、血小板減少 (皮)発疹、瘙痒、蕁麻疹 (他)コルチゾール上昇、テストステロン低下、TSH・尿酸・P 値上昇、疲労、浮腫、帯状疱疹、単純疱疹、結膜炎

【妊】未確立、有益のみ

【授】原則回避、投与する場合は授乳中止

【小*】未確立

＊セレコキシブ Celecoxib

【商】セレコックス Celecox アステラス

内用：錠剤(丸) 1錠中 100mg [83.7 円/錠]

【効】下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛：(1)関節リウマチ、(2)変形性関節症

【用】(1)1回 100～200mg を1日2回、朝・夕食後に投与する。(2)1回 100mg を1日2回、朝・夕食後に投与する。

【警】外国において、シクロオキシゲナーゼ(COX)-2 選択的阻害剤等の投与により、心筋梗塞、脳卒中等の重篤で場合によっては致命的な心血管系血栓塞栓性事象のリスクを増大させる可能性があり、これらのリスクは使用期間とともに増大する可能性があるとの報告されている。

【禁】本剤の成分又はスルホンアミドに対し過敏症の既往歴のある患者、アスピリン喘息(非ス

テロイド性消炎・鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者、消化性潰瘍のある患者、重篤な肝障害のある患者、重篤な腎障害のある患者、重篤な心機能不全のある患者、冠動脈バイパス再建術の周術期患者、妊娠末期の婦人

【副】ショック、アナフィラキシー様症状、消化性潰瘍、消化管出血、消化管穿孔、心筋梗塞、脳卒中、心不全、うっ血性心不全、肝不全、肝炎、肝機能障害、黄疸、再生不良性貧血、汎血球減少症、無顆粒球症、白血球減少症、血小板減少症、急性腎不全、間質性腎炎、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、多形紅斑、剥脱性皮膚炎 (全)倦怠感、口渇、末梢性浮腫、悪寒、全身浮腫、疲労、インフルエンザ様疾患、体重増加 (精)傾眠、頭痛、浮動性めまい、味覚異常、酩酊感、不眠症、睡眠障害、錯乱状態、不安、幻覚、筋緊張亢進、無嗅覚 (肝) AST・ALT 増加、γ-GTP・ALP 増加 (代) BUN・CK 増加、食欲不振、LDH 増加、尿糖陽性、糖尿病、K 増加、Na 増加 (消)腹痛、口内炎、下痢、悪心、鼓腸、消化不良、便潜血陽性、便秘、胃炎、口内乾燥、舌障害、胃腸障害、嘔吐、口角びらん、舌炎、腹部膨満、口腔内痛、食道炎、口の感覚鈍麻、歯の脱落、口腔内潰瘍、嚥下障害、胃食道逆流性疾患、腭炎、憩室、過敏性腸症候群、痔出血、排便回数増加 (血)β₂-ミクログロブリン増加、NAG 増加、尿潜血陽性、尿蛋白陽性、多尿、尿閉、頻尿、腎結石症、良性前立腺肥大症、前立腺炎、PSA 増加、クレアチニン増加 (循)高血圧、潮紅、高血圧増悪、動悸、不整脈、頻脈、洞性徐脈、狭心症、不安定狭心症、大動脈弁閉鎖不全症、冠動脈硬化症、心室肥大、深部静脈血栓症、血腫 (呼)咽頭炎、鼻出血、気管支炎、咳嗽、鼻炎、副鼻腔炎、呼吸困難、発声障害 (皮)発疹、瘙痒症、顔面浮腫、紅斑性皮疹、湿疹、蕁麻疹、点状出血、斑状丘疹状皮疹、皮膚乾燥、頭部粒糠疹、多汗、皮膚炎、斑状出血、光線過敏性反応、脱毛症、水疱性皮膚炎 (覚)耳鳴、回転性めまい、耳痛、霧視、硝子体浮遊物、結膜出血、聴力低下 (他)背部痛、筋硬直、関節痛、四肢痛、不正子宮出血、月経障害、ウイルス感染、貧血、

ヘマトクリット減少、ヘモグロビン増加、真菌感染、細菌感染、ヘリコバクター感染、尿路感染、上気道感染、耳感染、带状疱疹、丹毒、創傷感染、歯肉感染、迷路炎、アレルギー増悪、無菌性髄膜炎、筋痙攣、脂肪腫、ガングリオン、膣出血、乳房圧痛、卵巣嚢胞、閉経期症状、テストステロン減少、上顎炎、腱断裂、骨折、損傷

【妊】未確立、有益のみ、妊娠末期：禁忌

【授】授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

*テモゾロミド Temozolomide

【商】テモダール Temodal

シェリング・プラウ

内用：カプセル剤[㊞]

1 個中 20mg [3,345.9 円/個]

100mg [16,746.5 円/個]

【効】悪性神経膠腫

【用】〈初発〉放射線照射との併用にて、1 回 75mg/m²を 1 日 1 回連日 42 日間投与し、4 週間休薬する。その後、本剤単独にて、1 回 150mg/m²を 1 日 1 回連日 5 日間投与し、23 日間休薬する。この 28 日を 1 クールとし、次クールでは 1 回 200mg/m²に増量することができる。

〈再発〉1 回 150mg/m²を 1 日 1 回連日 5 日間投与し、23 日間休薬する。この 28 日を 1 クールとし、次クールで 1 回 200mg/m²に増量することができる。

【警】◆本剤による治療は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。◆本剤と放射線照射を併用する場合に、重篤な副作用や放射線照射による合併症が発現する可能性があるため、放射線照射とがん化学療法の併用治療に十分な知識・経験を持つ医師のもとで実施すること。◆本剤の投与後にニューモシスチス肺炎が発生することがあるため、適切な措置の実施を考慮すること。

【禁】本剤又はダカルバジンに対し過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性

のある婦人

【副】骨髄機能抑制、ニューモシスチス肺炎、感染症、脳出血、アナフィラキシー様症状 倦怠感、発熱、悪寒、頭痛、めまい、意識障害、感情不安定、焦燥、傾眠、貧血(ヘモグロビン・ヘマトクリット・赤血球減少)、白血球・リンパ球・好中球・血小板減少、単球減少、白血球・好中球・好酸球・好塩基球・単球増多、AST・ALT・ALP 上昇、γ-GTP・LDH・ビリルビン上昇、BUN・クレアチニン上昇、尿潜血、蛋白尿、尿検査異常、胸部不快感、動悸、心嚢液貯留、悪心、嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、腹痛、胃不快感、口内・口唇炎、胃腸炎、歯肉炎、消化不良、点状出血、带状疱疹、白癬、痒疹、蜂巣炎、発疹、脱毛、多形紅斑、しびれ、痙攣、振戦、片麻痺、無力症、上気道炎、胸水、しゃっくり、霧視、眼瞼炎、疲労、浮腫、熱感、CRP・血糖値・ヘモグロビン A1C 上昇、血清総蛋白・アルブミン・血中 Na 減少、水頭症、味覚異常、体重減少、疼痛

【妊】禁忌、投与する場合は妊娠回避

【授】授乳回避

【小】未確立

*シクレソニド Ciclesonide

【商】オルベスコ Alvesco

帝人

外用：吸入剤 1 缶(3.3g)中 11.2mg

[2,380.7 円/キット]

【効】気管支喘息

【用】100～400μg を 1 日 1 回吸入投与する。1 日の最大投与量は 800μg とする。1 日に 800μg を投与する場合は、朝、夜の 1 日 2 回に分けて投与する。

【禁】有効な抗菌剤の存在しない感染症・深在性真菌症の患者、本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者 結核性疾患の患者

【副】[㊞]発疹、痒疹、血管浮腫 [㊞]咽喉頭症状(不快感、疼痛)、嗄声、口渇、口腔カンジダ症、味覚異常、声のかすれ [㊞]AST・ALT 増加 [㊞]倦怠感、頭痛 [㊞]呼吸困難、尿中蛋白、胸部不快感、胸痛、気分不快、浮腫、動悸、気管支痙攣

【妊】有益のみ 【授】原則授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

＊塩化ベンゼトニウム Benzethonium Chloride

【商】ネオステリングリーン Neostelin Green

日本歯科

外用：液剤 1g 中 2mg [5.8 円/mL]

【効】①口腔内の消毒 ②抜歯創の感染予防

【用】①0.004%溶液として洗口する。②0.01～0.02%溶液として洗浄する。

【副】⑥過敏症状 ⑧刺激感

【貯】遮光

＊カルテオロール塩酸塩 Carteolol Hydrochloride

【商】ミケラン LA Mikelan LA 大塚

外用：点眼剤 2% (2.5mL) [660.9 円/mL]

【効】緑内障、高眼圧症

【用】1%製剤を 1 回 1 滴、1 日 1 回点眼する。十分な効果が得られない場合は、2%製剤を用いて 1 回 1 滴、1 日 1 回点眼する。

【禁】コントロール不十分な心不全・洞性徐脈・房室ブロック(Ⅱ、Ⅲ度)・心原性ショックのある患者、気管支喘息・気管支痙攣又はそれらの既往歴のある患者、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】喘息発作、失神、眼類天疱瘡、心ブロック、心停止、うっ血性心不全、脳虚血、脳血管障害、SLE、眼刺激症状(しみる感じ、疼痛、灼熱感、かゆみ、乾燥感等)、霧視、異物感、眼脂、結膜炎、眼瞼炎、眼瞼腫脹、羞明感、角膜障害(角膜炎、角膜びまん性混濁、角膜びらん等)、眼瞼発赤、眼底黄斑部の浮腫・混濁、視力異常、徐脈、胸痛、洞停止、動悸、呼吸困難、鼻症状(くしゃみ、鼻水、鼻づまり) ⑧頭痛、不快感、倦怠感、めまい、悪心、苦味、皮膚炎、血糖値の低下、発疹、筋肉痛、脱力感、抑うつ、重症筋無力症の増悪

【妊】未確立、有益のみ

【授】原則禁忌、授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】開封後遮光

＊ベバシズマブ Bevacizumab

【商】アバステン Avastin 中外

注射：液剤

1 瓶(4mL) 中 100mg [50,291 円/瓶]

1 瓶(16mL) 中 400mg [191,299 円/瓶]

【効】治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌

【用】《他の抗悪性腫瘍剤との併用》1 回 5mg/kg 又は 10mg/kg を点滴静注する。投与間隔は 2 週間以上とする。

【警】◆本剤を含むがん化学療法は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。適応患者の選択にあたっては、本剤及び各併用薬剤の添付文書を参照して十分注意すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。◆消化管穿孔があらわれ、死亡に至る例が報告されている。本剤の投与中に、消化管穿孔と診断された場合は、本剤の投与を中止し、適切な処置を行い、以降、本剤を再投与しないこと。◆創傷治癒遅延による合併症(創し開、術後出血等)があらわれることがある。(1)手術後の患者に本剤を投与する場合は、術創の状態を確認し、投与の可否を検討すること。大きな手術の術創が治癒していない場合は、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合を除き、本剤を投与しないこと。(2)本剤の投与中に創傷治癒遅延による合併症があらわれた場合は、創傷が治癒するまで本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。(3)本剤の投与終了後に手術を行う場合は、本剤の投与終了からその後の手術まで十分な期間をおくこと。◆本剤の投与により腫瘍関連出血のリスクが高まる可能性がある。脳転移を有する患者に本剤を投与した場合、脳出血があらわれるおそれがある。本剤の投与中に重度の出血があらわれた場合は、本剤の投与を中止し、適切な処置を行い、以降、本剤を再投与しないこと。◆脳血管発作、一過性脳虚血発作、心筋梗塞、狭心症、脳虚血、脳梗塞等の動脈血栓塞栓症があらわれ、死亡に至る例が報告されている。観察を十分に行い異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。動脈血栓塞栓症があらわれた患者には、本剤を再投与しないこと。◆高血圧性脳症又は高血圧性クリーゼがあらわれ、死亡に至る例が報告されている。これらの事象があらわれた場合は、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこ

と。このような患者には、以降、本剤を再投与しないこと。また、本剤の投与期間中は血圧を定期的に測定すること。◆可逆性後白質脳症症候群があらわれることがある。可逆性後白質脳症症候群が疑われた場合は、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 脳転移を有する患者

【副】ショック、アナフィラキシー様症状、infusion reaction、消化管穿孔、消化管瘻、創傷治癒遅延、消化管出血、肺出血、脳出血、鼻出血、歯肉出血、膣出血、脳血管発作、一過性脳虚血発作、心筋梗塞、狭心症、脳虚血、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症、コントロール不能の高血圧、高血圧性脳症、高血圧性クレーゼ、可逆性後白質脳症症候群、ネフローゼ症候群、好中球減少症、うっ血性心不全 ⑩頭痛、失神☆、傾眠☆、感覚神経障害☆ ⑪神経毒性、手足症候群 ⑫悪心、食欲不振、下痢、嘔吐、口内炎、腹痛、便秘、口唇炎、味覚異常、歯痛、歯肉炎、肛門出血、消化不良、胃腸障害☆、胃腸炎☆、腸閉塞☆、イレウス☆、直腸出血☆ ⑬尿蛋白陽性、クレアチニン・BUN 増加 ⑭ビリルビン増加、AST・ALT 上昇、LDH 増加 ⑮好中球数・白血球数・ヘマトクリット・ヘモグロビン・血小板数・赤血球数・リンパ球数減少、プロトロンビン時間延長、好中球数・白血球数増加、貧血☆ ⑯血管高血圧、上室性頻脈☆ ⑰脱毛症、色素沈着、皮膚剥脱、紅斑、皮膚乾燥☆、皮膚変色☆、剥脱性皮膚炎☆ ⑱筋骨部痛、側腹部痛 ⑲しゃっくり、発声障害、咽頭喉頭痛、呼吸困難☆、低酸素症☆、鼻炎☆ ⑳眼障害☆ ㉑体重減少、疲労・倦怠感、無力症、コレステロール増加、発熱、上気道感染、Na 増加、アルブミン・総蛋白減少、処置後出血、疼痛☆、敗血症☆、膿瘍☆、低カリウム血症☆、尿路感染☆、脱水☆、鼻中隔欠損☆、P 減少☆、血糖・ALP 上昇☆

【妊】有益のみ 【授】授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】遮光、2～8℃

*インターフェロンβ-1a Interferon Beta-1a

【商】アボネックス Avonex

バイオジェン・アイデック

注射：液剤① 1 筒(0.5mL)中 30μg

[39,890 円/筒]

【効】多発性硬化症の再発予防

【用】1 回 30μg を週一回筋注する。

【警】◆本剤又は他のインターフェロン製剤の投与によりうつ病や自殺企図が報告されているので、投与にあたっては、うつ病、自殺企図の症状又は他の精神神経症状があらわれた場合には直ちに医師に連絡するように注意を与えること。◆間質性肺炎があらわれることがあるので、投与にあたっては、患者の状態を十分に観察し、呼吸困難等があらわれた場合には、直ちに医師に連絡するように注意を与えること。

【禁】本剤の成分又は他のインターフェロン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、重度のうつ病又は自殺念慮のある患者又はその既往歴のある患者、非代償性肝疾患の患者、自己免疫性肝炎の患者、治療による管理が十分なされていないてんかん患者、小柴胡湯を投与中の患者、ワクチン等生物学的製剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】うつ病、自殺企図、アナフィラキシー様症状、白血球・血小板・汎血球減少、てんかん、うっ血性心不全、心筋症、自己免疫障害、肝障害、間質性肺炎、敗血症、甲状腺機能異常、注射部位壊死、糖尿病☆、自己免疫現象☆、ショック☆、Stevens-Johnson 症候群☆、急性腎不全☆、溶血性尿毒症症候群☆、脳出血☆、消化管出血☆、球後出血☆、認知症(特に高齢者)☆、麻痺☆、心不全☆、狭心症☆、ネフローゼ症候群☆ ㉒インフルエンザ様症状、発熱、倦怠感、体重減少、悪寒、疲労 ㉓ALT 上昇 ㉔頭痛、知覚過敏、感覚減退 ㉕咽頭炎 ㉖悪心、食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛 ㉗関節痛、筋力低下、背部痛、筋緊張亢進、筋痛 ㉘嚢胞、痒痒症、皮膚炎 ㉙聴覚障害、中耳炎、耳痛 ㉚低色素性貧血 ㉛月経困難症 ㉜注射部位反応、注射部位疼痛

【妊】禁忌

【授】回避、投与する場合は授乳中止

【小*】未確立

【貯】2～8℃

*フォンダパリヌクスナトリウム

Fondaparinux Sodium

【商】アリクストラ Arixtra

GSK

注射：液剤 1 筒(0.5mL)中 2.5mg [2,200 円/筒]

【効】 静脈血栓塞栓症の発現リスクの高い下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制

【用】 2.5mg を 1 日 1 回皮下投与する。腎障害のある患者に対しては、腎機能の程度に応じて 1.5mg 1 日 1 回に減量する。

【警】 脊椎・硬膜外麻酔あるいは腰椎穿刺等との併用により、穿刺部位に血腫が生じ、神経の圧迫による麻痺があらわれるおそれがある。併用する場合には神経障害の徴候及び症状について十分注意し、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。

【禁】 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者、出血している患者（後腹膜出血、頭蓋内出血、脊椎内出血、あるいは他の重要器官における出血等）、急性細菌性心内膜炎の患者、重度の腎障害（クレアチニンクリアランス 20mL/分未満）のある患者

【副】 出血、後腹膜出血、頭蓋内・脳内出血
㉔血小板数増加、貧血、凝固障害、血小板減少症、紫斑、血小板異常 ㉕肝機能障害、高ビリルビン血症 ㉖頭痛、めまい、不安、傾眠、錯乱 ㉗低血圧 ㉘嘔気、嘔吐、下痢、腹痛、便秘、消化不良、胃炎 ㉙発疹、瘙痒 ㉚局所反応 ㉛発熱、胸痛、浮腫、下肢痛、疲労、潮紅、失神 ㉜咳嗽、低カリウム血症、創部分泌、手術部位感染、アレルギー反応、呼吸困難

【妊】 未確立 【授】 授乳回避

【小*】 未確立

*メルファラン Melphalan

【商】 アルケラン Alkeran GSK
注射：㉞ 1 瓶中 50mg [10,144 円/瓶]

【効】 下記疾患における造血幹細胞移植時の前処置：白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、小児固形腫瘍

【用】 造血幹細胞移植時の前処置として下記のとおり静注する。移植は本剤の投与終了から 24 時間以上あけて行うこととする。1) 成人（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）：1 日 1 回 $60\text{mg}/\text{m}^2$ を 3 日間投与（総量 $180\text{mg}/\text{m}^2$ ）する。多発性骨髄腫には 1 日 1 回 $100\text{mg}/\text{m}^2$ を 2 日間投与（総量 $200\text{mg}/\text{m}^2$ ）も可とする。2) 小児（白血病、小児固形腫瘍）：1 日 1 回 $70\text{mg}/\text{m}^2$ を 3 日間投与（総量 $210\text{mg}/\text{m}^2$ ）する。

【警】 ◆本剤の投与は、緊急時に十分措置できる医療施設及び造血幹細胞移植に十分な知識と経験をもつ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ行うこと。◆本剤の使用にあたっては、患者又はそれに代わる適切な者に有効性及び危険性を十分に説明し、同意を得てから投与を開始すること。◆本剤は強い骨髄抑制作用を有する薬剤であり、本剤を前処置剤として用いた造血幹細胞移植の施行後、骨髄抑制作用の結果、感染症を発現し死亡した例が認められている。本剤投与後は重度の骨髄抑制状態となり、その結果致命的な感染症及び出血等を引き起こすことがあるので、下記につき十分注意すること。1) 重症感染症を合併している患者には投与しないこと。2) 本剤の投与後は患者の状態を十分に観察し、致命的な感染症の発現を抑制するため、感染症予防のための処置（抗感染症薬の投与等）を行い、必要に応じ無菌管理を行うこと。3) 本剤の投与後は輸血及び血液造血因子の投与等適切な支持療法を行うこと。◆本剤を前処置剤として用いた造血幹細胞移植の施行にあたっては、「禁忌」、「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項を参照し、慎重に患者を選択すること。

【禁】 重症感染症を合併している患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】 感染症、出血、ショック、アナフィラキシー様症状、心停止、胃腸障害、肝機能障害、黄疸、心筋症、不整脈、間質性肺炎、肺線維症、溶血性貧血 ㉟食欲不振 ㊱皮疹、瘙痒、浮腫 ㊲脱毛 ㊳温熱感、刺痛感 ㊴月経異常、卵巣機能不全

【妊】 3 ヶ月以内：有益のみ 【授】 授乳中止

【低・新・乳】 未確立 【小】 注意

【貯】 遮光

*塩酸アミオダロン Amiodarone Hydrochloride

【商】 アンカロン Ancaron

サノフィ・アベンティス

注射：液剤㉞ 1 管 (3mL) 中 150mg [3,139 円/管]

【効】 生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合：心室細動、血行動態不安定な心室頻拍

【用】 以下のとおり点滴静注により投与する。症状に応じて適宜増減あるいは追加投与を行う。

最大量として 1 日の総投与量は 1,250mg を超えないこと及び投与濃度は 2.5mg/mL を超えないこと。〔投与方法(48 時間まで)〕(1)初期急速投与：125mg を 5%ブドウ糖液 100mL に加え、容量型の持続注入ポンプを用い、600mL/時(10mL/分)の速度で 10 分間投与する。(2)負荷投与：750mg を 5%ブドウ糖液 500mL に加え、容量型の持続注入ポンプを用い 33mL/時の速度で 6 時間投与する。(3)維持投与：17mL/時の速度で合計 42 時間投与する。1)6 時間の負荷投与後、残液を 33mL/時から 17mL/時に投与速度を変更し、18 時間投与する。2)750mg を 5%ブドウ糖液 500mL に加え、容量型の持続注入ポンプを用い 17mL/時の速度で 24 時間投与する(計 600mg)。〔追加投与〕血行動態不安定な心室頻拍あるいは心室細動が再発し、本剤投与が必要な場合には追加投与できる。1 回の追加投与は 125mg を 5%ブドウ糖液 100mL に加え、容量型の持続注入ポンプを用い、600mL/時(10mL/分)の速度で 10 分間投与する。〔継続投与(3 日以降)〕48 時間の投与終了後、本剤の継続投与が必要と判断された場合は、継続投与を行うことができる。750mg を 5%ブドウ糖液 500mL に加え、容量型の持続注入ポンプを用い 17mL/時の速度で投与する(600mg/24 時間)。

【警】◆施設の限定：本剤の使用は致死的不整脈治療の十分な経験のある医師に限り、諸検査の実施が可能で、CCU、ICU あるいはそれに準ずる体制の整った、緊急時にも十分に対応できる施設でのみ使用すること。◆患者の限定：致死的不整脈患者で、難治性かつ緊急を要する場合にのみ使用すること。◆本剤では新たな不整脈や不整脈の増悪等を含む重篤な心障害が報告されており、ときに致死的な場合もあるので、CCU、ICU 等で心電図及び血圧の連続監視下で使用すること。なお、血圧については可能な限り動脈内圧を連続監視することが望ましい。◆本剤投与後 24 時間以内に重篤な肝機能障害が生じ、肝不全や死亡に至る場合もある(海外症例の副作用報告)ので、患者の状態を慎重に観察するなど、十分に注意すること。

【禁】洞性徐脈・洞房ブロック・重度伝導障害(高度な房室ブロック、二束ブロック又は三束ブロック)又は洞不全症候群がありペースメーカーを使用していない患者、循環虚脱又は重篤な低

血圧のある患者(血行動態不安定な心室細動又は心室頻拍発作発現中を除く)、本剤の成分又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者、リトナビル・サキナビル・メシル酸サキナビル・硫酸インジナビルエタノール付加物・メシル酸ネルフィナビル・クラス Ia 及びクラス III(ソタロール、ニフェカラン)の抗不整脈薬・ペプリジル・スパルフロキサシン又は塩酸モキシフロキサシンを投与中の患者、エリスロマイシン(注射剤)又はペンタミジン(注射剤)を投与中の患者、重篤な呼吸不全のある患者 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、甲状腺機能障害又はその既往歴のある患者

【副】間質性肺炎★ 肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全、既存の不整脈の重度の悪化、Torsades de pointes、心停止★ 血圧低下、徐脈、心不全 精神不眠症 嘔吐、悪心 発熱、投与部位反応 血圧低下、心電図 QT 延長、心房粗動、心室性頻脈、血管障害、低血圧、ほてり 鼻出血 白血球減少 ビリルビン増加、AST・LDH 上昇 尿蛋白 頭痛 甲状腺機能検査値異常

【妊】原則禁忌 投与する場合は慎重

【授】原則回避、投与する場合は授乳回避

【小*】未確立

【貯】遮光

*インターフェロン α Interferon Alfa

【商】オーアイエフ OIF 大塚
注射：1 瓶中 500 万国単位 [14,706 円/瓶]

【効】①HBs 抗原陽性でかつ DNA ポリメラーゼ陽性の B 型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ②C 型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中 HCV-RNA 量が高い場合を除く) ③慢性骨髄性白血病 ④腎癌

【用】①成人には 1 日 1 回 250 万～500 万国単位を皮下又は筋注する。小児には 10 万国単位/kg を皮下又は筋注する。同一部位への反復投与を避けること。②使用にあたっては、HCV-RNA が陽性であることを確認した上で行う。成人には 1 日 1 回 500 万～1,000 万国単位を連日又は週 3 回皮下又は筋注する。小児には 10 万国単位/kg を連日又は週 3 回皮下注する。上限 500 万国単位とする。同一部位への反復投与を避けること。③1 日 1 回 500 万国単位を連日皮下又

は筋注する。寛解後の維持には白血球数 3,000～5,000/mm³を目標に、1日1回500万国単位を隔日皮下又は筋注する。④1日1回500万国単位を皮下又は筋注する。

【警】本剤の投与により間質性肺炎、自殺企図があらわれることがあるので、「使用上の注意」に十分留意し、患者に対し副作用発現の可能性について十分説明すること。

【禁】小柴胡湯を投与中の患者、自己免疫性肝炎の患者、本剤又は他のインターフェロン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者、ワクチン等の生物学的製剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】間質性肺炎、肺線維症、うつ状態、自殺企図、自己免疫現象、糖尿病の増悪・発症、ケトアシドーシス、昏睡、汎血球減少、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、肝障害、急性腎不全、ネフローゼ症候群、心不全、狭心症、心室性頻拍、心筋症、心筋梗塞、完全房室ブロック、消化管出血、消化性潰瘍、虚血性大腸炎、意識障害、痙攣、興奮、譫妄、躁状態、幻覚・妄想、統合失調症様症状、見当識障害、痴呆様症状、失神、てんかん、顔面神経麻痺、錯乱、ショック、脳出血、敗血症、肺炎、難聴、皮膚潰瘍、網膜症、溶血性尿毒症症候群★
①発熱、全身倦怠感、関節痛、悪寒・戦慄、筋肉痛、背部痛・腰痛、脱力感 ②頭痛・頭重感、抑うつ、不安、不眠、焦躁、感情鈍麻、知覚減退、めまい、ふらつき、眠気、健忘、集中力障害、神経痛、知覚異常、歩行異常、ニューロパシー、舌のしびれ、冷感、肩こり、尿失禁、錐体外路症状、構語障害、脳波異常 ③発疹、痒痒感、蕁麻疹、湿疹 ④白血球・顆粒球・血小板減少、ヘモグロビン・赤血球減少、好酸球増多、貧血、出血傾向、リンパ節症 ⑤胸痛、動悸、血圧低下、潮紅、浮腫、頻脈、血圧上昇、心電図異常、末梢性虚血、徐脈 ⑥咳嗽、呼吸困難、咽喉頭炎、胸膜炎・胸水 ⑦AST・ALT・ALP・LDH 上昇、BUN・クレアチニン上昇、蛋白尿、頻尿、尿量減少、排尿障害 ⑧眼底出血、軟性白斑、硬性白斑、眼痛、羞明、複視、結膜炎、食欲不振、視神経炎 ⑨食欲不振、嘔気・嘔吐、消化不良、腹痛、下痢、便秘、口内炎、口渇、味覚異常、腹部膨満感、胃・十二指腸炎、味覚低下、舌炎、歯周炎、口唇炎、イ

レウス、舌変色 ⑩急性膵炎 ⑪脱毛、乾癬、多形滲出性紅斑、単純疱疹、爪変色 ⑫疼痛、潰瘍、発赤、硬結 ⑬トリグリセライド上昇、体重減少、血糖上昇、総蛋白減少、コレステロール値異常、電解質異常、耳鳴、鼻出血、血尿、尿酸値上昇、疲労、疼痛、月経異常、不正出血、発汗、ほてり、腹水、耳痛、嗅覚障害、膀胱炎、インポテンツ、前立腺炎、亜鉛欠乏、CK 上昇、蜂窩織炎、サルコイドーシス、各種自己抗体陽性化

【妊】未確立、有益のみ

【授】未確立、回避、投与する場合は授乳回避

【低・新・乳】未確立

*ホスフルコナゾール Fosfluconazole

【商】プロジフ Prodif ファイザー
注射：液剤

1 瓶(1.25mL)中フルコナゾールとして 100mg

[5,529 円/瓶]

【効】真菌血症、呼吸器真菌症、真菌腹膜炎、消化管真菌症、尿路真菌症、真菌髄膜炎

【用】1)カンジダ症：50～100mg を維持用量として1日1回静注する。初日、2日目は維持用量の倍量として、100～200mg を投与する。2)クリプトコッカス症：50～200mg を維持用量として1日1回静注する。初日、2日目は維持用量の倍量として、100～400mg を投与する。重症又は難治性真菌感染症の場合には、400mg まで維持用量を増量できる。初日、2日目は維持用量の倍量として、800mg まで投与できる。

【禁】トリアゾラム・シサプリド・エルゴタミン・ジヒドロエルゴタミンを投与中の患者、本剤の成分又はフルコナゾールに対して過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある患者

【副】ショック、アナフィラキシー様症状、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、無顆粒球症、汎血球減少症、血小板減少、白血球減少、貧血、急性腎不全、黄疸、肝炎、胆汁うっ滞性肝炎、肝壊死、肝不全、錯乱、見当識障害、痙攣、高カリウム血症、心室頻拍(Torsades de pointes を含む)、QT 延長、心室細動、房室ブロック、徐脈、間質性肺炎、偽膜性大腸炎 ①肝機能検査異常、肝障害、ALP・AST・γ-GTP・LDH 増加、ALT・ビリルビン増加、黄疸 ②発

疹、剥脱性皮膚炎、脱毛 ⑨嘔気、嘔吐、下痢、胃腸出血、口内乾燥、粘膜疹、しゃっくり★ 腹部不快感★ 消化不良★ 鼓腸放屁★ 食欲不振★ 腹痛★ ⑩浮動性めまい、不眠症、錯感覚、頭痛★ 手指のこわばり★ ⑪腎機能障害、急性腎不全悪化、腎クレアチニン・クリアランス減少、BUN・クレアチニン増加、乏尿 ⑫低カリウム血症、低カルシウム血症、高コレステロール血症★ 高トリグリセリド血症★ 高血糖★ ⑬貧血、好酸球増加、好中球減少★ ⑭高血圧、低血圧、静脈炎、心雑音、左心室不全 ⑮鼻炎、鼻出血 ⑯関節痛、筋痛、背部痛 ⑰血管痛、末梢性浮腫、細菌感染、頭痛、投与部位感染・炎症、結膜炎、熱感★ 味覚倒錯、発熱、浮腫、倦怠感★

【妊】禁忌 【授】授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】2～8℃

ある患者、気管支喘息の患者、妊婦又は妊娠の疑われる患者、投与部位並びにその周辺に炎症又は潰瘍のある患者

【副】アナフィラキシー様症状★ 血栓塞栓症、心停止★ 循環虚脱★ 肺水腫、錯乱、局所組織障害★ ⑱瘤内血栓、色素沈着、水疱、皮下出血、異常感覚、掻痒、浮腫、発赤、静脈炎、皮膚炎、びらん、疼痛、圧痛、痂皮、湿疹、アレルギー性皮膚反応、血腫 ⑲白血球減少、ヘモグロビン低下、プロトロンビン時間短縮 ⑳中性脂肪上昇、LDH 上昇、γ-GTP 上昇・低下、ALP 低下、総コレステロール上昇・低下 ㉑尿蛋白 ㉒CRP・CK 上昇、頭痛、片頭痛、錯感覚、めまい、胸痛、悪心、嘔気、視覚障害、味覚異常、多毛症、発熱、ほてり、血圧低下

【妊】禁忌 【授】授乳中止

【小*】未確立

＊ポリドカノール Polidocanol

【商】ポリドカスクレロール Polidocasklerol

ゼリア

注射：液剤⑳ 1 管(2mL)中 60mg [871 円/管]

【効】一次性下肢静脈瘤(伏在静脈瘤の本幹を除く)の硬化退縮

【用】直径 3mm 以上 8mm 以下の一次性下肢静脈瘤を対象に、1 穿刺あたり 0.5～1mL を基準として静脈瘤内に 1 箇所又は 2 箇所以上投与する。1 回の総投与量は 2mg/kg 以下とする。1 回の処置で治療が終了しない場合、次回の投与は原則として 1 週間後とする。

【警】◆動脈内へ使用しないこと。◆本剤投与により、肺塞栓、深部静脈血栓等の重篤な副作用が発現するおそれがあるので、症状等を注意深く観察し、発症が疑われた場合は適切な処置を行うこと。◆本剤は下肢静脈瘤硬化療法に十分な知識及び経験のある医師が使用すること。

【禁】深部静脈血栓症を有するあるいは血栓症の既往のある患者、動脈性血行障害を有する患者(動脈硬化又は糖尿病性細小血管症の患者を含む)、歩行の困難な患者、多臓器障害あるいはDIC(播種性血管内血液凝固症候群)状態の患者、経口避妊薬を服用している患者、抗凝固剤・抗血小板剤を服用している患者、重篤な心疾患のある患者、ショックあるいは前ショック状態にある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴の

ニトロール注のシリンジ製剤への切替について

抗狭心症剤「ニトロール注 5mg」につきまして、従来のアンプル製剤からプレフィルドシリンジ製剤の「ニトロール注 5mg シリンジ」に変更となります。そのため、オーダ設定も変更することと致します。

シリンジ製剤への移行は、アンプル製剤の在庫がなくなり次第とします。詳細につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室（内線 7083）までご連絡下さい。

	剤型	形状
旧製剤	アンプル製剤	
新製剤	プレフィルドシリンジ製剤	

ビカーボン注のバッグ製剤への切替について

細胞外液補充液「**ビカーボン注 500mL**」につきまして、従来のプラスチックボトル製剤からプラスチックバッグ製剤に変更となります。そのため、オーダ設定も変更することと致します。

注射オーダにおける名称は、従来通り「**ビカーボン注 500mL**」のままとなりますが、単位が「本」から「袋」に変更になります。設定変更に伴い Do 処方ができなくなりますので、切替時には薬品名を最初から入力して頂くようお願い致します。

バッグ製剤への移行は、ボトル製剤の在庫がなくなり次第とします。詳細につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室（内線 7083）までご連絡下さい。

	旧製剤	新製剤
剤型	ボトル製剤	バッグ製剤
形状		

重炭酸リンゲル液ピカーボン注

バック変更ご案内

(旧)



外袋下部を「押す」操作をしないと、確認できませんでした

(新)



開封前
ピンク色
...使用可

開封後
青紫色



ケミカルインジケーター「エージレスアイ」を用いており、色調の変化で検知出来るようになりました

<ピンホールの有無確認>